

香川県立保健医療大学リポジトリ

感情表出性について：
その概念と研究の動向、そして子ども感情研究への
展望

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三浦, 浩美, 山崎, 勝之 メールアドレス: 所属:
URL	https://kagawa-puhs.repo.nii.ac.jp/records/297

感情表出性について —その概念と研究の動向、そして子ども感情研究への展望—

三浦 浩美^{1)*}, 山崎 勝之^{2, 3)}

¹⁾ 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科

²⁾ 鳴門教育大学大学院学校教育研究科, ³⁾ 予防教育科学教育研究センター

Emotion Expressivity: Its Concept and Current Research, and Perspectives for Future Research in Children

Hiromi Miura^{1)*}, Katsuyuki Yamasaki^{2, 3)}

¹⁾ Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural University of Health Sciences

²⁾ School of Basic Research and Improvement of Practice for Education, Naruto University of Education

³⁾ Center for Education and Research on the Science of Preventive Education, Naruto University of Education

要旨

本稿では感情表出性の概念や研究内容を整理し、子どもの感情表出性研究への今後の方向性を示すことを目的とする。

感情および感情の表出は個人の健康や社会生活に影響を及ぼすものであり、人は自らの感情状態をコントロールすることを社会的にも個人的にもものぞまれている。自らの感情状態をコントロールすることを感情制御 (emotion regulation) といい、感情制御を、より特性的に表出・不表出という側面から捉えたものが感情表出性 (emotion expressivity) である。感情表出性の極端な個人は社会的に不利におかれることや、疾患との関連が欧米で明らかになってきているが、日本における研究は少ない。

本稿では感情表出性の概念や研究内容を整理し、子どもの感情表出性研究への今後の方向性を示すことを目的とする。

Key Words: 感情表出性 (emotion expressivity), 感情制御 (emotion regulation), 子ども (children), 健康・適応 (health/adjustment)

* 連絡先: 〒761-0123 香川県高松市牟礼町原 281-1 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科 三浦 浩美

* Correspondence to: Hiromi Miura, Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural University of Health Sciences, 281-1 Murecho-hara, Takamatsu, Kagawa 761-0123 Japan

はじめに

我々の心は、常に認知・感情・行動の3つ要素の連動により動いている¹⁾。その中でも感情は、冷静な認知を妨げるようなマイナス面が指摘され、認知より一段劣ったものとして扱われた時期があるが、近年では人の適応を生み出すというプラス面が注目され、数多くの研究がなされるようになってきた²⁻⁵⁾。

感情には情報の伝達、動機付け、経験の意味づけそして生活を豊かにする働きがあると言われている⁶⁾。そして喜びや楽しさなどの高いポジティブ感情は日常の生活を生き生きさせるだけでなく、心臓血管系反応の早い回復を示し⁷⁾、寿命を延ばす⁸⁾といわれている。一方、ネガティブ感情が強いと不安や抑圧が強くなる^{9, 10)}など、感情と健康の関連を明らかにした研究が多くみられる。

感情は個人の健康に関連するだけでなく、感情を表出することで個人の内的状態の伝達と個人間のコミュニケーションの役割があり¹¹⁾、社会的相互作用をもたらす。しかし不適切な感情的な反応は、良好な人間関係形成を阻害するなど社会的な困難とも関連する¹²⁾。

感情および感情の表出は個人の健康や社会生活に影響を及ぼすものなので、人は自らの感情状態をコントロールすることを社会的にも個人的にも求められている。この、自らの感情状態をコントロールすることを感情制御(emotion regulation)といい、Gross¹³⁾は「感情制御は、感情的反応を増加、保持もしくは減少するために使用する意識的無意識的方略の全てを含む」と定義している。そして感情をどのように制御するかを、より特性的に表出・不表出という側面から捉えたものが感情表出性(emotion expressivity)である。

感情表出性の極端な個人は社会的に不利におかれる^{14, 15)}と言われている。またネガティブ感情の表出が非常に高いか、もしくは不表出な幼児は問題行動を外在化する傾向がある^{16, 17)}など、極端な感情表出性が日常生活に支障を及ぼすような行動につながるばかりでなく、気管支喘息の子どもたちが、ストレスの多い努力状況での怒り・喜びと驚きの表現が少ない¹⁸⁾など、疾患との関連が欧米で明らかになっている。

今後、感情表出性が健康・適応とどのような関連があるかを更に明確にできれば、健康・適応状態を促進する関わりへの示唆が得られると考える。感情表出性という個人の特性に応じた健康・適応状態を促進する対応は、一次予防の効果が得られる可能性がある。これらのことから、感情表出性は着目する価値がある概念である。

そこで、本稿では感情表出性の概念や研究内容を整理し、子どもの感情表出性研究への今後の方向性を示すことを目的とする。

感情表出性の研究の動向

感情表出性の研究について述べる前に、まず感情及び感情表出に関する概念を確認しておく。

1. 感情の様々な側面

1) 感情の分類

感情は、複雑なものであり、様々な捉え方や分類がある。一部を挙げると、1つには基本的感情と社会的感情という分類がある³⁻⁵⁾。基本的感情は、喜び・楽しさ・恐怖・嫌悪・悲しみ・驚きなどであり、個体の欲求の満足や阻止に伴って経験されるものである³⁻⁵⁾。社会的感情は誇らしさ・恥ずかしさ・嫉妬などであり、他者との関係から生じるものである³⁻⁵⁾。

もう1つには、人の感情は1枚岩ではなく、valence (positive - negative) と activation (high activation - low activation) という2次元で捉えられる、という感情の二次元モデル¹⁹⁾が提唱され、北村ら³⁾が改変するなどしている (Fig.1 参照)。

2) 感情の表出経路

感情を感じている時には自律神経系に作用し、血圧・心拍・体温・皮膚伝導性など身体的反応に大きな変化が起こる^{4, 5, 11)}。そして表情・しぐさ・など非言語的に表れ、本人に意識された主観的な感情は言語として表される^{4, 5, 11)}。

そして率直に表出される感情と抑制される感情があり²⁰⁾、その表出反応は、①感情を抑制すること無しにありのまま表出する、②真の感情よりも強度を弱めて感情を表出する、③真の感情よりも強度を強めて感情を表出する、④何も表出しない、⑤感情を表出するが、別の感情を同時に表出することでそれを和らげる、⑥実際に感じている感情とは別の感情を表出する、という6つに分類される^{21, 22)}。このように表出反応が異なる要因には、感情の表出・抑制に関する暗黙の社会的ルールである表示規則や感情制御能力の個人差、パーソナリティ特性(外向性・内向性、神経症傾向・情緒安定性)、感情経験の頻度や強度の個人差、感情表出性など^{4, 20, 23)}、多くのものがある。

2. 感情表出性の研究の始まり

感情表出(emotion expression, emotional expression, emotion expressiveness)についての研究は基礎的な

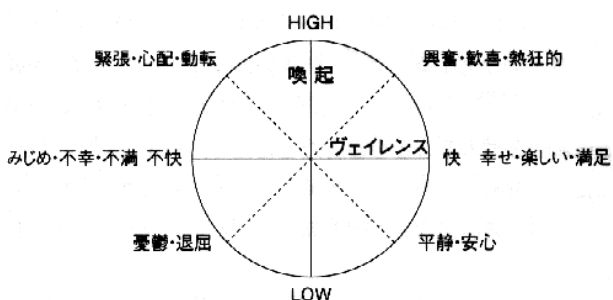


Fig.1 The two dimensions model of emotions

研究が古くからおこなわれていた。1900年代前半には、表情からの感情の判断^{24, 25)}、感情とその表出の関係²⁶⁾など、感情と、複数の感情反応の中でも表情との関連を行う研究がなされていた。1900年後半に入ると、様々な研究が行われた。まず感情表出を客観的にとらえるための測定方法の研究²⁷⁻³¹⁾、感情表現の認知における精神神経疾患患者の問題³²⁾、早発性痴呆の感情表現³³⁾、片側の脳障害患者の感情表現の経路³⁴⁾など疾患と感情表出の関連、母子関係における6～8ヶ月児の感情表出の安定性³⁵⁾、感情表出の機能としての母子間の凝視パターン³⁶⁾など母子の関わりと感情表出との関連を明らかにする研究、幼児は静的な表情を読み取るか³⁷⁾、感情の表出と反応のコントロールの発達³⁸⁾乳児の感情制御と感情表出の性差³⁹⁾などの発達の研究が行われ、同様の系統の研究が今日に至っている。

用語としては、emotion expression, emotional expression, emotional expressiveness, emotional expressivityなど様々な用いられていて、厳密に違いが定義づけられていないことが多いが、感情表出性(emotional expressivity)という表現を用いて特性を捉えようとした研究が1970年頃よりみられはじめ^{40, 41)}、1990年頃より増加している^{20, 39, 42-45)}。

3. 感情表出性の捉え方(定義)

現在、感情表出性の定義については議論が分かれているところである。感情や表出方法を特定せず、広範囲にわたる一般的な表出を捉えるか、感情特有の表出性をとらえるか、という点において違いがあり、結論はでない。

Kringら⁴²⁾は、前者の立場をとり、「感情のタイプや表出方法を仮定せず、様々な感情を表出する、一般的な性質」と定義し、一因子構造の測定尺度を開発した。

一方、Kingら⁴⁶⁾、Grossら⁴³⁾は、感情価など、感情に特有の構造をもって感情表出性を捉えた。Kingら⁴⁶⁾はexpression of positive emotion(正感情の表出)、expression of negative emotion(負感情の表出)、expression of intimacy(親しみの表出)を捉えて感情表出性の構造とした。またGrossら⁴³⁾は、positive emotion(正感情)、negative emotion(負感情)、impulse strength(衝撃の強さ)をもって感情表出性を捉えようとした。他にも、家庭での、悲しみ、心配、怒り、喜びの表出について捉える⁴⁷⁾など、感情表出の構造の捉え方は研究者により様々である。

結局、感情表出および感情表出性は個人差の大きいものであり、感情の種類やvalenceによって影響される。また状態と特性を区別する必要がある⁴⁸⁾ものであるため、1つの分類に固定することができないというのが結論である。概念や尺度を使用する際には、一因子構造か多因子構造か、多因子構造ならばどの構造をとらえるのか等、どの視点で捉えたものかを把握しておく必要がある。

4. 測定方法

感情表出および感情表出性の測定は、観察法・質問紙法などの方法がある。以下にそれぞれの主な方法を述べる。

1) 観察法

主にビデオを見たり物語を読んで、その時の表情を評価者が評価するものである^{16, 42, 49-53)}。古くから、そして現在もよく使用される方法である。しかし、評価の再現性・客観性に欠ける面がある方法である。

Strayer⁴⁹⁾は、5～13歳の子どもを対象に、ビデオを見ている間の表情を見て、ネガティブ感情及びポジティブ感情をコーディングした。Eisenbergら¹⁶⁾は、評価者が対象者と同性の者であるよう留意した。Michalikら⁵⁰⁾は、母親と子どもが共に遊んでいる様子をもとにコーディングした。Kringら^{42, 51)}は、ビデオを見ている間の表情をvalence(正感情・負感情)別に頻度、強さと継続時間を観察し、それぞれ得点化し、Z得点を算出した(The Facial Expression Coding System; FACES)。評価者は事前に訓練を行っていた。

他には、成人が自らの負と正のライフイベントを話す間の感情の表出を2人の観察者が判定⁵²⁾したり、乳児や母親を対象に、凝視の方向、発声、ジェスチャーなどをコード化⁵³⁾した研究者がいた。

2) 質問紙法

1900年代後半に入り、再現性・客観性の高い尺度作成が行われてきた。

Snyder²⁸⁾は、その人の自己プレゼンテーションの社会的適切さ、適切な自己表現へのきっかけとしての社会的比較情報に対する関心、表現力豊かなふるまいをコントロールして修正する能力などを自己評価する尺度(Self-Monitoring Scale; 25項目; 2段階評価)を作成した。Friedman⁵⁴⁾は、表現の豊かさを測定する尺度(Affect Communication Test; ACT)を作成した。しかしこれは、極端な表出性をもつ、カリスマ的な人を特定するような尺度であった⁴²⁾。

感情に特有の構造をもって感情表出性を捉えた研究者たちが作成した尺度は、Kingら⁴⁶⁾の、expression of positive emotion(正感情の表出)、expression of negative emotion(負感情の表出)、expression of intimacy(親しみの表出)という3因子構造の尺度The Emotional Expressiveness Questionnaire(EEQ; 16項目、7段階評価、 $\alpha = .63 \sim .74$)や、感情表出についての個人のアンビバレントな考えや努力を調べるThe Ambivalence Over Emotional Expressiveness Questionnaire(AEQ; 28項目、5段階評価、 $\alpha = .77, .87$)がある。

またGrossら⁴³⁾は、内的な感情体験や正負感情の表出を評定する、3因子構造の尺度The Berkeley Expressivity Questionnaire(BEQ; 16項目、7件法、 $\alpha = .85$)を作成した。そして家庭での、悲しみや心配、喜

びなどの感情表出を測定した The Familial Emotional Expression scale for Children and Adolescents (FEECHA)⁴⁷⁾, The Self-Expressiveness in the Family Questionnaire⁵⁵⁾ などがある。

そして上記の尺度はすべて成人を対象とした、自己で評価をするものである。

次に、感情表出を「感情のタイプや表出方法を仮定せず、様々な感情を表出する、一般的な性質」と定義した、Kring ら⁴²⁾ の作成した尺度は、Emotional Expressivity Scale (EES; 一因子構造, 17 項目, 6 段階評価, $\alpha = .91$) である。Dobbs⁵⁶⁾ の追試によっても、尺度の妥当性は支持された。

そして、この成人対象の EES 尺度を Eisenberg ら¹⁶⁾ は子どもを対象に、他者（教師）が評価する尺度になるよう表現を変更した。子どもを対象にした尺度は少なく、他に Penza-Clyve ら⁵⁷⁾ の Emotion expression scale for children（自己評価, 5 段階評価, $\alpha = .70$ ）があるのみである。

5. 対象者

感情表出に関する研究においては、測定尺度のほとんどが成人を対象にしていることから推測できるとおり、成人を対象にした研究が多い^{9, 13, 20, 41, 43, 45, 52, 56, 58-62)}。また、成人ではあるが、母子関係における母親を対象とした研究^{16, 50, 63)} もある。

また子どもの場合は乳幼児^{16, 36, 37, 63-67)} を対象に、母子関係や発達の視点の研究が多く行われている。学童期^{14, 62, 68, 69)} や思春期^{47, 70, 71)} に対する調査は少なく、今後十分調査されるべきである。

6. 健康・適応との関連

先行研究の中で、健康・適応との関連を明らかにしたものについて以下に挙げる。

1) 発達

乳幼児期の感情表出に関する発達生理学的変化、学童期の感情のコントロール獲得に向けての発達に関する研究が行われていた。例えば、学童期の感情性の発達と社会的能力の発達⁶⁹⁾ および性差³⁸⁾、神経発達と他者の視線や感情表出との関連⁶⁵⁾、感情表出性の自己評価と仲間評価、行動の関連²⁰⁾、感情の表出、感情経験や生理学的変化の性差⁷²⁾、感情の表出と反応のコントロール・コーピングとの発達^{62, 70)} などであった。

2) 精神疾患との関連

成人を主な対象者として、精神疾患患者の感情表出について研究されていた。主な研究としては、精神病患者の感情表出とコミュニケーション⁷³⁾、失感情症など精神疾患と性格特性との関連^{52, 61)}、精神的苦痛による階層的な構造と関係⁵⁸⁾ などがあり、子どもの感情表出と精神生物学的反応の乖離⁶⁴⁾ についての調査もあった。

3) 身体的疾患との関連

感情表出性と身体的疾患との関連を明らかにした研究は多くはないが、乳がん患者と健康な女性の感情的な表

現⁷⁴⁾、健康な女性の感情表出とオキシトシン分泌の関連⁶⁰⁾、思春期の頭痛患者と感情表出⁴⁷⁾ などの研究が行われていた。また、学童期の子どもの感情表出と喘息患者の肺機能^{18, 71)} が、適度な感情表出性と健康の関連を示すものである。

4) 母子関係

感情表出は、母子関係や家族間の関係性とも関連が深く、親としての社会化と子どもの制御されていない感情表出⁷⁵⁾、子どもの共感性や感情表出と親の共感性・感情表出・養育態度との関連^{67, 14, 16, 76)} が明らかにされた。さらに縦断的研究^{50, 66, 63, 77)} も行われている。

5) 社会的適応

感情表出性とパーソナリティの発達における関連⁷⁷⁾ や幼児の向社会的行動との関係^{14, 64)} などから、不適切な感情表出は、社会的不適応をひきおこすことが明らかにされている。

日本における感情表出性の研究

日本においては、感情表出性の研究は子どもを中心に行われている。家族や友人など関係性・表示規則との関連^{78, 79, 80)} や発達の研究^{81, 82)} との関連が主に明らかにされている。しかしこれらの研究において、感情表出性は観察法や物語法などにより測定され、客観性が乏しく一般化していくことは難しい。崔⁸³⁾ は、中高生を対象として感情表出の制御を測定する尺度の作成を行っている。しかしその尺度は、友人とのコミュニケーションの場面においての、感情の種類・感情制御の方略・感情の起因場所についての質問項目であり、測定される感情表出の制御はかなり限定される。

このように、現在日本において感情表出性を客観的に測定できる信頼性の高い尺度の作成がまず必要な状況である。そして、心身の疾患や社会的適応との関連などの研究もなく、今後研究によって明らかにされることが望まれる。

子どもを対象にした感情表出性の研究の必要性

子どもは、就学することにより、大きな環境の変化を経験し、ストレスを感じる。環境の変化に対応するにはそれまでに獲得した内的安定感や社会的スキルが重要となる。さらに 9 歳・10 歳ころになると認知的発達段階として具体的操作期に入り⁸⁴⁾、客観的な見方、相手の立場に立って考えるなどの変化が見られる重要な時期である。この時期に、仲間との交流を通して人間関係のスキルや社会性などを身につけるのである。

しかし、子どもの鬱や不適応が増加している。文部科学省の平成 21 年度「児童の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」⁸⁵⁾ によると、小・中・高等学校における暴力行為の発生件数は前年度より 1 千件増加し、

小・中学校においては過去最高の件数に上る。暴力行為が増えた理由について、文科省は（１）感情のコントロールができない、（２）コミュニケーション能力の不足、（３）規範意識の欠如、などを挙げた。このような子どもたちへの治療的介入はもちろん重要だが、感情コントロールの訓練などの予防的介入も必要である。

今後、感情表出については発達の視点での研究だけでなく、健康・適応との関連を明確にする必要がある。研究結果をもとに、適切な感情処理のスキルの獲得など子ども自身の訓練、また子どもの感情表出性に応じた対応の仕方の親・教師の訓練など予防教育的介入について検討する必要があるだろう。

おわりに

本稿では、感情表出性の概念や研究内容を整理し、子どもの感情表出性の研究についての今後の方向性について述べた。感情表出性という個人の特性に応じて、健康・適応状態を促進する介入ができることにより、健康の増進や疾病・不適応状態の予防など、一次予防につながる事が期待される。

文 献

- 1) 山崎勝之, 倉掛正弘, 内田香奈子, 勝間理沙. “うつ病予防教育”, 東山書房, 京都, 2007.
- 2) 北村英哉. “認知と感情”, ナカニシヤ出版, 京都, 2003.
- 3) 北村英哉, 木村晴. “感情研究の新展開”, ナカニシヤ出版, 京都, 2006.
- 4) 澤田瑞也. “感情の発達と障害 感情のコントロール”, 京都, 世界思想社, 2009.
- 5) 高橋雅延. “認知と感情の心理学”, 岩波書店, 東京, 2008.
- 6) 澤田瑞也. 感情の発達, “子どもの発達と心理” (小石寛文編著) 八千代出版, 東京, 2007.
- 7) Fredrickson BL, Mancuso RA, Branigan C, Tugade MM. The undoing effect of positive emotions. *Motivation and Emotion* 24: 237-258, 2000.
- 8) Danner DD, Snowdon DA, Friesen WV. Positive emotions in early life and longevity: findings from the nun study. *Journal of personality and social psychology* 80: 804-813, 2001.
- 9) Brady EU, Kendall PC. Comorbidity of anxiety and depression in children and adolescents. *Psychological Bulletin* 111: 244-255, 1992.
- 10) Feldman LA. Distinguishing depression and anxiety in self-report: Evidence from confirmatory factor analysis on nonclinical and clinical samples. *Journal of Consulting and Clinical Psychology* 61: 631-638, 1993.
- 11) Trierweiler L, Eid M, Lischetzke T. The structure of emotional expressivity: Each emotion counts. *Journal of Personality and Social Psychology* 82: 1023-1040, 2002.
- 12) Gross JJ, Thompson RA. Emotion regulation; conceptual foundations. “Handbook of emotion regulation” (ed. by Gross JJ), 1st ed. Guilford, New York, 3-24, 2007.
- 13) Gross J, John O. Mapping the domain of expressivity: Multimethod evidence for a hierarchical model. *Journal of Personality and Social Psychology* 74: 170-191, 1998.
- 14) Eisenberg N, Zhou Q, Losoya S, Fabes R, Shepard S, Murphy B, Reiser M, Guthrie I, Cumberland A. The relations of parenting, effortful control, and ego control to children's emotional expressivity. *Child Development* 74: 875-895, 2003.
- 15) 澤田瑞也. “感情の発達と障害 感情のコントロール”, 第1版, 京都, 世界思想社, 55-56, 2009.
- 16) Eisenberg N, Losoya S, Fabes R, Guthrie I, Reiser M, Murphy B, Shepard S, Poulin R, Padgett S. Parental socialization of children's dysregulated expression of emotion and externalizing problems. *Journal of Family Psychology* 15: 183-205, 2001.
- 17) Cole PM, Zahn-Waxler C, Fox NA, Usher BA, Welsh JD. Individual differences in emotion regulation and behavior problems in preschool children. *Journal of Abnormal Psychology* 105: 518-529, 1996.
- 18) Hollaender J, Florin I. Expressed emotion and airway conductance in children with bronchial asthma. *Journal of Psychosomatic Research* 27: 307-311, 1983.
- 19) Russell JA, Carroll JM. On the bipolarity of positive and negative affect. *Psychological Bulletin* 125: 3-30, 1999.
- 20) Gross J, John O. Revealing feelings: Facets of emotional expressivity in self-reports, peer ratings, and behavior. *Journal of Personality and Social Psychology* 72: 435-448, 1997.
- 21) Ekman P, Friesen WV. The repertoire of nonverbal behavior: Origins, usage, and coding. *Semiotica* 1: 49-98, 1969.
- 22) Ekman P, Friesen WV. “Unmasking the face”, 1st ed., Prentice-Hall, New Jersey, 1975.
- 23) Saarni C. Socialization of emotion. “Handbook of emotions” (ed. by Lewis M, Haviland JM)

- 2nded., Guilford , New York, 435-446, 1993.
- 24) Langfeld HS. The judgment of emotions from facial expressions. *The Journal of Abnormal Psychology* 13: 172-184, 1918.
 - 25) Munn NL. The effect of knowledge of the situation upon judgment of emotion from facial expressions. *The Journal of Abnormal and Social Psychology* 35: 324-338, 1940.
 - 26) Carr H. The relation between emotion and its expression. *Psychological Review* 24: 369-375, 1917.
 - 27) Lefcourt HM. Repression-sensitization: A measure of the evaluation of emotional expression. *Journal of Consulting Psychology* 30: 444-449, 1966.
 - 28) Snyder M. The self-monitoring of expressive behavior. *Journal of Personality and Social Psychology* 30: 526-537, 1974.
 - 29) Denny D, Denny LJ, Rust JO. Preschool children's performance on two measures of emotional expressiveness compared to teacher ratings. *Journal of Genetic Psychology* 140: 149-150, 1982.
 - 30) Russell JA, Bullock M. Multidimensional scaling of emotional facial expressions: Similarity from preschoolers to adults. *Journal of Personality and Social Psychology* 48: 1290-1298, 1985.
 - 31) Gangestad S, Snyder M. To carve nature at its joints: On the existence of discrete classes in personality. *Psychological Review* 92: 317- 349, 1985.
 - 32) Zsemlye K, Moussong-Kovacs E. Neuropsychiatric patients' problems in recognizing emotional expressions: Employing the Rudolph test. *Magyar Pszichologiai Szemle* 24: 195-206, 1967.
 - 33) De Bruyn JW. A study of emotional expression in dementia praecox. *The Journal of Abnormal Psychology* 3: 378-385, 1909.
 - 34) Borod JC, Koff E, Lorch MP, Nicholas M. Channels of emotional expression in patients with unilateral brain damage. *Archives of Neurology* 42: 345-348, 1985.
 - 35) Slee PT. Mother-infant interaction: The stability of emotional expression during infants' sixth to eighth month. *Early Child Development and Care* 16: 217-230, 1984.
 - 36) Slee PT. The nature of mother-infant gaze patterns during interaction as a function of emotional expression. *Journal of the American Academy of Child Psychiatry* 23: 385-391, 1984.
 - 37) Caron RF, Caron AJ, Myers RS. Do infants see emotional expressions in static faces? *Child Development* 56: 1552-1560, 1985.
 - 38) Bronson WC. Early antecedents of emotional expressiveness and reactivity control. *Child Development* 37: 793-810, 1966.
 - 39) Weinberg K, Tronick E, Cohn J. Gender differences in emotional expressivity and self-regulation during early infancy. *Developmental Psychology* 35: 175-188, 1999.
 - 40) Turner RG, Peterson M. Public and private self-consciousness and emotional expressivity. *Journal of Consulting and Clinical Psychology* 45: 490-491, 1977.
 - 41) Lueger R, Evans R. Emotional expressivity and sex-role perceptions of repressors and sensitizers. *Journal of Personality Assessment* 45: 288-294, 1981.
 - 42) Kring A, Smith D, Neale J. Individual differences in dispositional expressiveness: Development and validation of the emotional expressivity scale. *Journal of Personality and Social Psychology* 66: 934-949, 1994.
 - 43) Gross J, John O. Facets of emotional expressivity: Three self-report factors and their correlates. *Personality and Individual Differences* 19: 555-568, 1995.
 - 44) Heinhold A, Kerr S, Palladino L. Gender differences in parents' perceptions of their adult children's and their families' emotional expressivity. *Personality and Individual Differences* 24: 559-564, 1998.
 - 45) Hess U, Sene'cal S, Kirouac G, Herrera P, Philippot P, Kleck R. Emotional expressivity in men and women: Stereotypes and self-perceptions. *Cognition And Emotion* 14: 609-642, 2000.
 - 46) King L, Emmons R. Conflict over emotional expression: Psychological and physical correlates. *Journal of Personality and Social Psychology* 58: 864-877, 1990.
 - 47) Osterhaus SOL. The familial emotional expression scale for children and adolescents (FEECHA) and an exploration of young headache patients' emotional expression. *Families, Systems & Health* 17: 229-242: 1999.
 - 48) Diener E, Smith H, Fujita F. The personality structure of affect. *Journal of Personality and Social Psychology* 69: 130-141, 1995.
 - 49) Strayer J. Children's concordant emotions and cognitions in response to observed emotions.

- Child Development 64: 188-201, 1993.
- 50) Michalik N, Eisenberg N, Spinrad T, Ladd B, Thompson M, Valiente C. Longitudinal relations among parental emotional expressivity and sympathy and prosocial behavior in adolescence. *Social Development* 16: 286-309, 2007.
 - 51) Kring A, Sloan D. The facial expression coding system (FACES): Development, validation, and utility. *Psychological Assessment* 19: 210-224, 2007.
 - 52) Wanger H, Lee V. Alexythymia and individual differences in emotional expression. *Journal of Research in Personality* 42: 83-95, 2008.
 - 53) Weinberg K, Tronick E. Beyond the face; An empirical study of infant affective configurations of facial, vocal, gestural, and regulatory behaviors. *Child Development* 65: 1503-1515, 1994.
 - 54) Friedman HS, Prince LM, Riggio RE, Dimatteo MR. Understanding and assessing nonverbal expressiveness: The affective communication test. *Journal of Personality and Social Psychology* 39: 333-351, 1980.
 - 55) Halberstadt AG, Cassidy J, Stifter CA, Parke RD, Fox NA. Self-expressiveness within the family context: Psychometric support for a new measure. *Psychological Assessment* 7: 93-103, 1995.
 - 56) Dobbs J, Sloan D, Karpinski A. A psychometric investigation of two self-report measures of emotional expressivity. *Personality and Individual Differences* 43: 693-702, 2007.
 - 57) Penza-Clyve S, Zeman J. Initial validation of the emotion expression scale for children (EESC). *Journal of Clinical Child and Adolescent Psychology* 31: 540-547, 2002.
 - 58) Barr L, Kahn J, Schneider J. Individual differences in emotion expression: Hierarchical structure and relations with psychological distress. *Journal of Social & Clinical Psychology* 27: 1045-1077, 2008.
 - 59) Coats A, Blanchard-Fields F. Emotion Regulation in Interpersonal Problems: The Role of Cognitive – Emotional Complexity, Emotion Regulation Goals, and Expressivity. *Psychology and Aging* 23: 39-51, 2008.
 - 60) Tops M, van Peer JM, Korf J. Individual differences in emotional expressivity predict oxytocin responses to cortisol administration: Relevance to breast cancer ? *Biological Psychology* 75: 119-123, 2007.
 - 61) Riggio H, Riggio E. Emotional expressiveness, extraversion, and neuroticism: A meta-analysis. *Journal of Nonverbal Behavior* 26: 195-218, 2002.
 - 62) Bronson WC. Adult derivatives of emotional expressiveness and reactivity- control: developmental continuities from childhood to adulthood. *Child Development* 38: 801-817, 1967.
 - 63) Eisenberg N, Valiente C, Morris A, Fabes R, Cumberland A, Reiser M, Gershoff E, Shepard S, Losoya S. Longitudinal relations among parental emotional expressivity, children's regulation, and quality of socioemotional functioning. *Developmental Psychology* 39: 3-19, 2003.
 - 64) Quas J, Hong M, Alkon A, Boyce T. Dissociations between psychobiologic reactivity and emotional expression in children. *Psychobiologic Reactivity and Emotional Expression* 37: 153-174, 2000.
 - 65) Hoehl S, Wiese L, Striano T. Young infants' neural processing of objects is affected by eye gaze direction and emotional expression. *Infant Social Attention* 3: 1-6, 2008.
 - 66) Roberts W. The socialization of emotional expression: Relations with prosocial behaviour and competence in five samples. *Canadian Journal of Behavioural Science* 31: 72-85, 1999.
 - 67) Berlin L, Cassidy J. Mothers' Self-Reported Control of Their Preschool Children's Emotional Expressiveness: A Longitudinal Study of Associations with Infant-Mother Attachment and Children's Emotion Regulation. *Social Development* 12: 477-495, 2003.
 - 68) Strayer J, Roberts W. Children's anger, emotional expressiveness, and empathy: Relations with parents' empathy, emotional expressiveness, and parenting practices. *Social Development* 13: 229-254, 2004.
 - 69) Sallquist J, Eisenberg N, Spinrad T, Reiser M, Hofer C, Zhou Q, Liew J, Eggum N. Positive and Negative Emotionality. Trajectories Across Six Years and Relations With Social Competence. *Emotion* 9: 15-28, 2009.
 - 70) Sullivan TN, Helms SW, Kliewer W, Goodman KL. Associations between Sadness and anger regulation coping, emotional expression, and physical and relational aggression among urban adolescents. *Social Development* 19: 30-51, 2010.
 - 71) Bray MA, Theodore L, Patwa S, Margiano S, Alric J, Peck H. Written emotional expression as an intervention for asthma. *Psychology in the Schools* 40: 193-207, 2003.
 - 72) Kring A, Gordon A. Sex differences in emotion: Expression, experience, and physiology. *Journal*

- of Personality and Social Psychology 74: 686-703, 1998.
- 73) Cutting J. Judgement of Emotional Expression in Schizophrenics. The British Journal of Psychiatry 139: 1-6, 1981.
- 74) Fernandez-Ballesteros R, Ruiz MA, Garde S. Emotional expression in healthy women and those with breast cancer. British Journal of Health Psychology 3: 41-50, 1998.
- 75) Eisenberg N, Gershoff E, Fabes R, Shepard S, Cumberland A, Losoya S, Guthrie I, Murphy B. Mothers' emotional expressivity and children's behavior problems and social competence: Mediation through children's regulation. Developmental Psychology 37: 475-490, 2001.
- 76) Valiente C, Eisenberg N, Shepard SA, Fabes RA, Cumberland AJ, Losoya SH, Spinrad TL. The relations of mothers' negative expressivity to children's experience and expression of negative emotion. Developmental Psychology 25: 215-235, 2004.
- 77) Abe JA, Izard CE. A longitudinal study of emotional expression and personality relations in early development. Journal Personality and Social Psychology 77: 566-577, 1999.
- 78) 大対香奈子, 松見淳子. 幼児の他者視点取得, 感情表出の統制, および対人問題解決から予測される幼児の社会的スキルの評価. 社会心理学研究 22: 223-233, 2007.
- 79) 埴朋子. 関係性に応じた情動表出. 教育心理学研究 47: 273-282, 1999.
- 80) 樟本千里, 近藤慈恵, 林千津子, 原野明子, 八島美菜子. 児童の感情表出の制御に関する知識. 広島大学大学院教育学研究科紀要 3: 461-467, 2001.
- 81) 樟本千里, 近藤慈恵, 林千津子, 原野明子, 八島美菜子. 児童の表示規則に関する知識の発達と家庭の感情表出風土. 広島大学教育学部紀要 3: 399-406, 2000.
- 82) 平林秀美, 柏木恵子. 情動表出の制御と対人関係に関する発達的研究. Human Developmental Research 9: 25-39, 1993.
- 83) 崔京姫, 新井邦二郎. 新版感情表出の制御尺度の作成. Tsuba Psychological Research 21: 89-97, 1999.
- 84) 波多野完治編. “ピアジェの発達心理学”, 国土社, 東京, 1996.
- 85) 文部科学省 平成 21 年度 “児童の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査”, http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/09/_icsFiles/afieldfile/2010/09/14/1297352_01.pdf

Abstract

Emotions and emotion expressivity have many influences on health and social adjustment. Therefore, it is necessary to control emotions and their expressivity socially and personally. This control is called “emotion regulation”. Emotion expressivity depicts emotion regulation as a trait in terms of the expression-suppression dimension. Although an increasing amount of research in western countries has clarified that extreme emotion expressiveness leads to social maladjustment and disease, few studies on the subject have been conducted in Japan.

In the present study, we reviewed findings from previous research on emotion expressivity to suggest future direction for research in children in this area.

受付日 2010 年 10 月 14 日

受理日 2011 年 1 月 4 日